



この世界でいちばんたしかなこと、それは、子どもの目にも おとなの目にも、みえないものなのですから

作：ニューヨーク・サン新聞「社説」 絵：東 逸子 訳：中村 妙子『サンタクロースっているんでしょうか?』

「サンタクロースって、ほんとうに、いるんでしょうか?」8歳の女の子の質問に、びたりと答えた人がいます。1897年のアメリカのニューヨーク・サンという新聞に、投書に答える形で掲載され、いまでも語り継がれる名社説を訳した本。目に見えないもの、心の大切さを語りかける、大人にもぜひ読んでほしい作品です。
(Amazon本の紹介より転載)

今年もうすぐクリスマス。プレゼントを何にしようか決めたかな?

僕の子どもたちが小さい頃は、「サンタさんにちゃんとお願ひしてね」と言っていたものだ。ある時、娘が「もうサンタさんをお願いしたから」と言って教えてくれないことがあって焦ったこともあった。そしてそのうち、「サンタさんは本当にいるの?」と聞かれるのも子育てであるあるだ。さて、君ならどう答える?

125 年前、同じ質問を新聞社に尋ねた女の子がいた。質問したのはバージニアという8歳の女の子。何度も聞いてくる娘に対し困った父親は「新聞社に聞いてみれば」と答えた。そこでバージニアはこんな手紙を新聞社に送った。

Dear Editor—

I am 8 years old. Some of my little friends say there is no Santa Claus. Papa says, “If you see it in The Sun, it's so.” Please tell me the truth, is there a Santa Claus?

Virginia O'Hanlon

この手紙に真剣に社説で答えたのがニューヨーク・サン紙。社説というところが新聞社の本気を表しているのだが、とにかくこの答えが素晴らしい。あんまりできすぎているので創作なのではないかと疑われたそう。日本でも有名だから、たぶん聞いたり、読んだりした人も多いと思う。回答の一部を紹介しよう。

- Yes, Virginia, there is a Santa Claus. He exists as certainly as love and generosity and devotion exist, and you know that they abound and give to your life its highest beauty and joy.

- Nobody sees Santa Claus, but that is no sign that there is no Santa Claus. The most real things in the world are those that neither children nor men can see. Did you ever see fairies dancing on the lawn? Of course not, but that's no proof that they are not there. Nobody can conceive or imagine all the wonders there are unseen and unseeable in the world.

この「Yes, Virginia」と呼びかける部分が特に有名な部分で、「イエス、バージニア」と言えばこの記事を指すのだそうだ。今日の名言もその部分。

この世界でいちばんたしかなこと、それは、子どもの目にもおとなの目にも、みえないものなのですから

僕はあのとき娘になんて答えたんだろう? 多分、適当にごまかしたに違いない。この社説子のようにしっかり大切なことを語れる大人になりたかったな。いやいや、今度は孫にそう話してあげられるように自分を磨かなくちゃ。

というわけで、英語では理解が進まないという方には訳したものをご紹介します。『サンタクロースっているんでしょうか?』という絵本。

本校の図書室は只今、クリスマス一色。クリスマスにちなんだ本も展示中で、もちろんこの一冊もあります。ぜひ、読んでみてください。

